

**卒業までに、必ず学習する教科・科目等と履修する順序について確認しましょう。**

教科名	必ず履修する科目（☑を入れて確認しよう。）と履修順序
国語	<input type="checkbox"/> 「現代の国語」 <input type="checkbox"/> 「言語文化」 <b>【履修順序】</b> 「現代の国語」「言語文化」⇒「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」、「古典探究」
地理歴史	<input type="checkbox"/> 「地理総合」 <input type="checkbox"/> 「歴史総合」 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地理総合」⇒「地理探究」</li> <li>・「歴史総合」⇒「日本史探究」、「世界史探究」</li> </ul>
公民	<input type="checkbox"/> 「公共」 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共」⇒「倫理」、「政治・経済」</li> </ul>
数学	<input type="checkbox"/> 「数学Ⅰ」 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「数学Ⅰ」⇒「数学Ⅱ」⇒「数学Ⅲ」</li> <li>・「数学A」:「数学Ⅰ」との並行履修、                          または、「数学Ⅰ」⇒「数学A」</li> <li>・「数学Ⅰ」⇒「数学B」、「数学C」</li> </ul>
理科	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 「科学と人間生活」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちから2科目（うち1科目は「科学と人間生活」とする。） または、 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」のうちから3科目 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「物理基礎」⇒「物理」、「化学基礎」⇒「化学」、                          「生物基礎」⇒「生物」、「地学基礎」⇒「地学」</li> <li>・「科学と人間生活」を履修した後、基礎が付いた科目を履修することや、基礎が付いた科目との関連を図りながら並行して履修することは可</li> </ul>
保健体育	<input type="checkbox"/> 「体育」 <input type="checkbox"/> 「保健」
芸術	<input type="checkbox"/> 「音楽Ⅰ」、「美術Ⅰ」、「工芸Ⅰ」、「書道Ⅰ」のうちから1科目 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ「Ⅰ」⇒「Ⅱ」⇒「Ⅲ」の順序で履修</li> </ul>
外国語	<input type="checkbox"/> 「英語コミュニケーションⅠ」 <b>【履修順序】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語コミュニケーションⅠ」⇒「英語コミュニケーションⅡ」                          ⇒「英語コミュニケーションⅢ」</li> <li>・「論理・表現Ⅰ」⇒「論理・表現Ⅱ」⇒「論理・表現Ⅲ」</li> </ul>
家庭	<input type="checkbox"/> 「家庭基礎」、「家庭総合」のうちから1科目
情報	<input type="checkbox"/> 「情報Ⅰ」
人間と社会	<input type="checkbox"/> 教科「人間と社会」は東京都独自の教科で、科目名は、学校が定めます。全ての学校で全ての生徒が卒業までに学習しなければならない必履修教科です。一部の学校では、「総合的な探究の時間」の中で学習します。
総合的な探究の時間	<input type="checkbox"/> 卒業までに、3単位から6単位の学習を行います。 ※職業教育を主とする専門学科（工業に関する各学科、商業に関する各学科、農業に関する各学科など）で、「課題研究」等を学習することによって、「総合的な探究の時間」における学習活動の一部または全部に替えることができます。
ホームルーム活動	<input type="checkbox"/> 年間35単位時間以上行います。

その他

- ☆1回の**授業時間は50分が標準**で、これを**1単位時間**と言い、学校ごとに決めることができます。
- ☆高等学校で学習する教科・科目は、「**必履修科目**」、「**学校必履修科目**」(文系・理系などの類型の別などに応じて全ての生徒が学習するよう学校が定めた科目)、「**自由選択科目**」(生徒が自由に選択し、学習することができる科目)に分けることができます。
- ☆専門学科(工業に関する学科、商業に関する学科、農業に関する学科、家庭に関する学科、体育に関する学科、国際関係に関する学科など)においては、専門学科における各教科・科目を学習することによって、各学科に共通する必履修教科・科目の一部または全部の学習に替えることができます。
- ☆各教科・科目についての詳しい内容や分からない点については、学校までお問い合わせください。

よくある質問

- Q 「必履修(ひつりしゅう)教科・科目」とは何ですか。**  
A 学習指導要領では、全ての学校で、全ての生徒が卒業までに学習しなければならない教科・科目等が定められています。これを「必履修教科・科目等」と言います。
- Q 「履修(りしゅう)」とは何ですか。**  
A 皆さんが各教科・科目の学習をすることを「履修」と言います。皆さんが学習して、学習し終えたことを学校が定めた基準に従って認めたととき、その教科・科目を「履修」したことになります。
- Q 高校の授業に関して出てくる「単位」とは何ですか。**  
A 高等学校では、学習した量を「単位」という言葉で表します。週1単位時間の授業を35週にわたって学習すると、1単位に相当します。週2時間の授業であれば、2単位となります。
- Q 専門学科にも必履修教科・科目はありますか。**  
A 専門学科でも、このリーフレットに示した各学科に共通する必履修教科・科目を学習する必要があります。さらに、専門学科における各教科・科目を25単位以上学習します。また、専門学科における各教科・科目の学習により各学科に共通する必履修教科・科目と同様の成果が期待できる場合は、各学科に共通する必履修教科・科目の一部を専門学科における教科・科目により代替することが認められています。詳しい内容については、学校に確認してください。
- Q 総合学科高校での必履修科目は何ですか。**  
A 総合学科高校でも、このリーフレットに示した各学科に共通する必履修教科・科目を学習する必要があります。さらに、「産業社会と人間」を学習します。
- Q 「単位の修得」とは何ですか。**  
A 「単位の修得」に関する基準は、各学校で定めています。皆さんが各教科・科目の学習をすることを「履修」と言い、一定の成果が教科及び科目の目標からみて満足できると認められるときに「単位の修得」が認定されます。
- Q 卒業するための条件は何ですか。**  
A 卒業の条件は、各学校で定めています。学校が定めた必履修教科・科目を全て学習し、その上で決められた単位数を修得し、特別活動(ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事のことを言います。)の成果がその目標からみて満足できると認められるときに卒業が認定されます。  
なお、卒業までに修得しなければならない単位数は、学習指導要領で74単位以上と定められています。
- Q 通信制課程の添削指導や面接指導の時間数はどのようになっていますか。**  
A 通信制課程の各教科・科目の添削指導の回数及び面接指導の時間は、学習指導要領で定められています。また、「総合的な探究の時間」の添削指導の回数及び面接指導の単位数については、各学校で、学習活動に応じて定めています。
- Q 「総合的な探究の時間」はどのようなねらいをもって学習するのですか。**  
A 「総合的な探究の時間」においては、次のようなねらいをもって学習します。  
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。  
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。  
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。  
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、(1)から(3)までの資質・能力を育成しつつ、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決できるようにすることを目指します。

**※ このリーフレットのほか、学校で配布された説明プリント等をあわせて、確認してください。**